

第1回産業構造審議会製造産業分科会資料

独立行政法人理化学研究所

高橋 政代

(再生医療研究の課題)

- ・再生医療は、医学と理工学を融合する新たな医療分野であり、日本が世界をリードし得る重要な分野。例えば、私の担当する眼領域の再生医療は、2050年までに約2,000億円の新市場が創出されると予測されている。しかしながら、国内における研究活動や実際の治療を行うに当たって必須となる培地や試薬、装置などの大半は外国製品に依存しており、供給途絶リスクのみならずコスト高の原因。

(再生医療関連産業の重要性)

- ・日本において再生医療を実用化し、より多くの患者が再生医療の恩恵を享受するためには、今般の法制度の改革（再生医療進新法の制定、薬事法の改正）を踏まえ、高い技術力を持つ事業者の参加とこれら事業者間の適切な競争が進むことが必要。
- ・これにより、日本企業の高い技術力が発揮され、高品質で使い勝手の良い培地や試薬、装置などの関連機器が、より安い価格で提供されることを期待。
- ・医療現場のニーズを的確に反映した資機材の開発は、再生医療の発展には不可欠であり、これら資機材を世界に供給することで、更なる産業の振興に繋がる。特に、医療現場のニーズを反映させるため、医療従事者が研究開発などのイノベーションプロセスに参加できる環境を早急に整備することが必要。
- ・再生医療の発展のためにも、当初から世界を見据えた再生医療関連産業の振興が必要。

(終わりに)

- ・再生医療は、これまで適切な治療方法がない難病に苦しむ多くの患者の希望。また、慢性疾患の有効な治療方法になれば、先進各国が直面する医療財政の問題にも光明をもたらす。
- ・こうした分野を日本がリードすることで、世界から感謝されつつ経済の発展にも繋げることこそ日本が追求すべき政策テーマではないか。